

第85回 簿記実務検定第1級試験問題 原価計算 (制限時間 1時間30分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当座預金	製品	A組製品	B組製品
仕損品	第1工程半製品	素材	消費材料
所得税預り金	健康保険料預り金	従業員賞与手当	仕損費
製造	A組製造	B組製造	第2工程製造
第2工程製造	組間接費	売上原価	賃金
材料消費価格差異	本社	工場	

a. 単純総合原価計算を採用している長野製作所は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を計上した。なお、半年分の賞与の支払予定額は ¥3,180,000 である。

b. 鹿児島製作所の素材に関する資料は次のとおりであった。よって、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を消費材料勘定から材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材の予定価格は @¥900 であり、実際消費単価の計算は総平均法によっている。

前月繰越高	400個	@¥880	¥352,000
当月仕入高	2,000〃	〃 ¥940	¥1,880,000
当月消費数量	2,100〃		

c. 組別総合原価計算を採用している宮崎工業株式会社は、組間接費を各組の組直接費を基準として配賦率を求め、A組とB組に配賦した。なお、当月の製造費用は次のとおりである。

	A組直接費	B組直接費	組間接費
材料費	¥500,000	¥700,000	¥140,000
労務費	¥2,350,000	¥3,650,000	¥480,000
経費	¥140,000	¥160,000	¥880,000

d. 工程別総合原価計算を採用している熊本薬品工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。ただし、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第2工程（最終工程）に投入した第1工程の完成品原価は ¥2,180,000 である。なお、当社では第1工程の完成品原価をすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

第1工程 ¥4,570,000 第2工程 ¥3,290,000

e. 工場会計が独立している福岡製作所の本社は、工場の従業員の賃金 ¥1,960,000 について、所得税額 ¥128,000 および健康保険料 ¥84,000 を控除した正味支払額を小切手を振り出して支払った。ただし、所得税預り金勘定および健康保険料預り金勘定は本社の上に設けてある。（本社の仕訳）

f. 個別原価計算を採用している岐阜産業株式会社において、製造指図書#5の製品全部が仕損じとなり、新たに製造指図書#5-1を発行し代品の製造を開始したので、本日、仕損費を計上した。ただし、製造指図書#5に集計された製造原価は ¥860,000 であり、仕損品の評価額は ¥89,000 である。

2

大分製作所は、単純総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料と製造勘定によって、

(1) 単純総合原価計算表を完成しなさい。

(2) 製造勘定の減価償却費（アの金額）を求めなさい

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

iii 正常減損は製造工程の終点で発生しており、正常減損費は完成品のみに負担させる。

資 料

a. 生産データ

月初仕掛品 500kg (加工進捗度40%)

当月投入 2,050kg

合計 2,550kg

月末仕掛品 400kg (加工進捗度50%)

正常減損 150kg

完成品 2,000kg

b. 月初仕掛品原価

素材費 ￥801,000

加工費 ￥819,000

c. 当月製造費用

素材費 ￥3,075,000

加工費 ￥8,299,000

製 造

前月繰越 () 製 品 ()

素 材 () 次 月 繰 越 ()

工場消耗品 615,000

賃 金 5,420,000

退職給付費用 652,000

健康保険料 73,000

減価償却費 (ア)

電 力 料 910,000

雑 費 389,000

() ()

3

次の各問いに答えなさい。

(1) 佐賀製作所の下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期材料費

b. 当期経費

c. 当期製品製造原価

資 料

① 素 材 期首棚卸高 ￥250,000 当期仕入高 ￥800,000

期末棚卸高 ￥280,000

② 燃 料 期首棚卸高 ￥32,000 当期仕入高 ￥263,000

期末棚卸高 ￥34,000

③ 工場消耗品 期首棚卸高 ￥26,000 当期仕入高 ￥141,000

期末棚卸高 ￥47,000

④ 賃 金 当期予定消費高 ￥

前期未払高 ￥150,000

当期支払高 ￥940,000

当期未払高 ￥180,000

予定賃率を用いており、賃率差異勘定の借方に ￥20,000 の残高がある。

⑤ 給 料 当期消費高 ￥320,000

⑥ 従業員賞与手当 当期消費高 ￥160,000

⑦ 外注加工賃 前期前払高 ￥35,000

当期支払高 ￥110,000

当期未払高 ￥27,000

⑧ 電 力 料 当期支払高 ￥260,000

当期測定高 ￥270,000

⑨ 減価償却費 当期消費高 ￥102,000

⑩ 仕 掛 品 期首棚卸高 ￥390,000

期末棚卸高 ￥240,000

⑪ 当期中に副産物が発生し、その評価額は ￥300,000 である。

- (2) 山梨製作所は、等級別総合原価計算を採用し、1級製品・2級製品・3級製品を製造している。下記の資料によって、次の金額を求めなさい。ただし、等価係数は、各製品の1個あたりの重量を基準としている。

- a. 当月の1級製品の製造原価 b. 当月の2級製品の製品単価（単位原価）

資 料

- ① 当月完成品総合原価 ￥1,975,000

②

	1個あたりの重量	当月完成品数量
1級製品	640g	280個
2級製品	400g	740個
3級製品	320g	490個

- (3) 標準原価計算を採用している長崎製作所の当月における下記の資料と製造勘定から、次の金額を求めなさい。なお、製造勘定への記帳方法は、パーシャルプランに依っている。

- a. 製造勘定の労務費（アの金額） b. 製造勘定の次月繰越（イの金額） c. 予算差異
ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。
ii 解答欄の（ ）のなかに不利差異の場合は（不利）、有利差異の場合は（有利）と記入すること。

資 料

- ① 標準原価カード

A製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	4kg	¥600	¥2,400
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	3時間	¥1,000	¥3,000
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	3時間	¥1,200	¥3,600
	製品/個あたりの標準原価		¥9,000

- ② 生産データ

月初仕掛品	200個	（加工進捗度60%）
当月投入	800個	
合計	1,000個	
月末仕掛品	300個	（加工進捗度50%）
完成品	700個	

- ③ 実際直接材料費

実際消費数量	3,250kg
実際単価	¥580

- ④ 実際直接労務費

実際直接作業時間	2,200時間
実際賃率	¥1,060

- ⑤ 製造間接費実際発生額 ¥2,728,000

- ⑥ 製造間接費予算（公式法変動予算）

変動費率	¥500
固定費予算額	¥1,610,000
基準操業度（直接作業時間）	2,300時間

製 造	
前月繰越 1,272,000	製 品 ()
材 料 ()	諸 口 207,000
労 務 費 (ア)	次 月 繰 越 (イ)
製造間接費 ()	
()	()

- (4) 愛知製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。

- a. 当月の営業利益
b. 損益分岐点の売上高
c. 目標営業利益 ¥324,000 を達成するための販売数量

資 料

- | | | | |
|-----------|--------|----------------|----------|
| ① 月初製品棚卸高 | 0個 | ⑤ 製造費用 | |
| ② 完成品数量 | 1,500個 | 変動製造費（製品/個あたり） | ¥400 |
| ③ 月末製品棚卸高 | 500個 | 固定製造間接費 | ¥120,000 |
| ④ 販売単価 | ¥900 | ⑥ 販売費及び一般管理費 | |
| | | 変動販売費（製品/個あたり） | ¥50 |
| | | 固定販売費及び一般管理費 | ¥60,000 |

4

個別原価計算を採用している静岡製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月3/日の①と⑩の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 素材勘定・製造間接費勘定・第2製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）とB製品（製造指図書#2）の原価計算表を作成しなさい。
ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 50個 @¥5,320 ¥ 266,000
工場消耗品 250〃 〃 〃 280 ¥ 70,000
仕 掛 品（製造指図書#1） ¥1,938,000（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高は、作業時間/時間につき ¥1,260 の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥6,210,000	¥4,320,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	13,800時間	12,000時間

取 引

/月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は現金で支払った。

素 材 400個 @¥5,300 ¥2,120,000
工場消耗品 650〃 〃 〃 280 ¥ 182,000

/2日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材300個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額 ¥2,893,000

うち、控除額 所 得 税 ¥231,000 健康保険料 ¥97,000

26日 電力料 ¥135,000 を現金で支払った。

- 3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は200個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。
製造指図書#1 / 1,200時間 製造指図書#2 900時間 間接作業 / 50時間
- ③ 健康保険料の事業主負担分 ¥97,000 を計上した。
- ④ 当月の製造経費消費高を計上した。
電力料 ¥126,000 保険料 ¥47,000 減価償却費 ¥201,000
- ⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	400時間	800時間
	製造指図書#2	700時間	200時間

- ⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ¥403,000 第2製造部門 ¥293,000
動力部門 90,000 修繕部門 70,000

- ⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって、直接配賦法で各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×300時間	10kW×300時間
修繕部門費	修繕回数	2回	2回

- ⑧ A製品（製造指図書#1）50個が完成した。
- ⑨ 当月の賃金実際消費高を計上した。これにより、当月の実際平均賃率は作業時間/時間につき ¥1,280 となった。
- ⑩ 予定賃率による消費高と実際平均賃率による消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑪ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。
- ⑫ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

第85回 簿記実務検定 1級 原価計算 [答案用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

単純総合原価計算表

平成○年/月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費			
労 務 費			
経 費			
計			
月初仕掛品原価			
計			
月末仕掛品原価			
完 成 品 原 価			
完 成 品 数 量	kg	kg	kg
製品/kgあたりの原価	¥	¥	¥

(2)

製造勘定の減価償却費
(ア の 金 額)

¥

2

得点

3

(1)

a	当 期 材 料 費	¥
b	当 期 経 費	¥
c	当 期 製 品 製 造 原 価	¥

(2)

a	当月の1級製品の製造原価	¥
b	当月の2級製品の製品単価 (単位原価)	¥

(3)

a	製造勘定の労務費(アの金額)	¥
b	製造勘定の次月繰越(イの金額)	¥
c	予 算 差 異	¥ ()

(4)

a	当 月 の 営 業 利 益	¥
b	損 益 分 岐 点 の 売 上 高	¥
c	目標営業利益¥324,000 を達成するための販売数量	個

3
得点

4

(1)

	借 方	貸 方
/月3/日①		
3/日⑩		

(2)

素 材	
1/1 前 月 繰 越	266,000
製 造 間 接 費	
第 2 製 造 部 門 費	

(3) 製造指図書 # /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
1,596,000	252,000	第 1	200	450	90,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	個
						製品単価	¥

製造指図書 # 2

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
						直接材料費	
						直接労務費	

4

得点

借 方		貸 方	
a	製 造	530,000	従業員賞与手当 530,000
b	材料消費費価格差異	63,000	消 費 材 料 63,000
c	A 組 製 造 B 組 製 造	598,000 902,000	組 間 接 費 1,500,000
d	第1工程半製品 第2工程製造 製 品	4,570,000 2,180,000 3,290,000	第1工程製造 4,570,000 第1工程半製品 2,180,000 第2工程製造 3,290,000
e	工 場	1,960,000	所得税預り金 128,000 健康保険料預り金 84,000 当 座 預 金 1,748,000
f	仕 損 品 仕 損 費	89,000 771,000	製 造 860,000

単 純 総 合 原 価 計 算 表				
平成〇年/月分				
摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計	
材 料 費	3,075,000	615,000	3,690,000	
労 務 費	—	6,145,000	6,145,000	
経 費	—	1,539,000	1,539,000	
計	3,075,000	8,299,000	11,374,000	
月初仕掛品原価	801,000	819,000	1,620,000	
計	3,876,000	9,118,000	12,994,000	
月末仕掛品原価	608,000	776,000	1,384,000	
完 成 品 原 価	3,268,000	8,342,000	11,610,000	
完 成 品 数 量	2,000kg	2,000kg	2,000kg	
製品/kgあたりの原価	1,634	4,171	5,805	

(2) 製造勘定の減価償却費 240,000
(ア の 金 額)

3

(1)	a	当期材料費	¥	1,151,000
	b	当期経費	¥	544,000
	c	当期製品製造原価	¥	2,975,000

(2)

a	当月の1級製品の製造原価	¥	560,000
b	当月の2級製品の製品単価 (単位原価)	¥	1,250

(3)

a	製造勘定の労務費(アの金額)	¥	2,332,000
b	製造勘定の次月繰越(イの金額)	¥	1,710,000
c	予算差異	¥	18,000 (不利)

(4)

a	当月の営業利益	¥	270,000
b	損益分岐点の売上高	¥	360,000
c	目標営業利益¥324,000 を達成するための販売数量		1,120 個

4

(1)

	借	方	貸	方
/月3/日①	製造間接費	196,000	工場消耗品	196,000
3/日②	貸率差異	45,000	消費賃金	45,000

(2)

素		材	
1/1 前月繰越金	266,000	1/12 製造繰越	1,591,000
8 現金	2,120,000	31 次月繰越	795,000
	2,386,000		2,386,000
製造間接費			
1/31 工場消耗品	196,000	1/31 諸口	856,000
〃 消費賃金	189,000		
〃 健康保険料	97,000		
〃 諸口	374,000		
	856,000		856,000
第2製造部門費			
1/31 製造間接費	293,000	1/31 製造繰越	360,000
〃 諸口	65,000		
〃 製造部門費配賦差異	2,000		
	360,000		360,000

(3) 製造指図書#1

原価計算表		集計	
直接材料費	直接労務費	製造間接費	金額
1,596,000	252,000	第1 200	90,000
	1,512,000	第2 400	180,000
	1,764,000	第3 800	288,000
			558,000
			3,918,000
			50 個
			製品単価 ¥ 78,360

製造指図書#2

原価計算表		集計	
直接材料費	直接労務費	製造間接費	金額
1,591,000	1,134,000	第1 700	315,000
		第2 200	72,000
			直接材料費
			直接労務費